

令和元年度第3回鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会 地域連携部会 会議録

日 時： 令和2年2月6日（木） 午後2時から午後3時00分

場 所： 鎌ケ市役所地下1階 団体研修室

出席者： 星野里香（障がい福祉課課長）、黒岩史郎（鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会会長）、  
菊地謙（同副会長）、星野暁洋（障がい者の働くを支えるチーム）、渡辺博（地域資源を  
調査・研究しより良い方策を提言するチーム）、上谷豪（障がい者のつながりを支える  
チーム）、高畑和幸（障がい分野の情報を発信・啓発するチーム）

欠席者： 福田弘子（精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム）、林恵利（医療  
的ケア児支援チーム）

関係者： 飯田裕乃（精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム）

事務局： 【鎌ケ谷市障がい福祉課】 遠藤課長補佐、星庶務係長、中村主査補、鈴木

【鎌ケ谷市基幹相談支援センターえがお】 渡辺、馬場、久保田、岩室

関係者： 鎌ケ谷市市民活動推進センタープロジェクトマネージャー 影山

傍聴者： 0名

・ 本日の委員の出席者数と傍聴者数の報告

本日委員出席者7名、会議成立の定則数の過半数を超えている旨報告。

・ 部会長挨拶

## 1 各テーマ別チームからの報告及び検討

### (1) 障がい者の働くを支えるチーム

「障がい者が働ける場所が少ない」、「事業所で働く賃金（工賃）が低い」という課題の明確化はできたものの解決策の具体化に行き詰った。そこで、福祉分野に理解があり、商工分野にも人脈がある橋本結希さん（訪問美容を経営）と昨年11月に意見交換を行なった。決定的な解決策までは見出すことは出来なかったが、イベント等を通して企業や外部の方に知ってもらおうという方向性を決めた。今年度はここまでとなり、来年度への引き継ぎ事項をまとめた。

来年度への引き継ぎ事項としては、まず、①市内の事業所の内容を調べ基礎資料を作成する  
②実際にメンバーが各事業所の作業内容等を見してみる、③各事業所について互いに理解を深め  
協力体制を強化するの3点である。

### (2) 地域資源を調査・研究しより良い方策を提言するチーム

移動支援の活用に関して、通学・通所が困難な人がどのくらいいて、どうしているのかを調査するためのアンケートを実施し、関係各位の協力で248通の回答をいただいた。

「通学・通所に関するアンケート調査結果」について説明。

Q1 通勤・通所ができていますか

「できている」70%・「できていない」30%

Q2 通学・通所への対応に困る主な要因

「保護者の仕事の都合（共働き等によるもの）」が最も多い。

「その他」には、本人の体調が悪く安定していない、親の介護等があった。

Q3 利用したことのあるサービス

「自力（家族等によるものを含む）で行っている」78%、「その他」には、事業所の送迎等が含まれている。社会資源を使っている方は少ない。

Q4 移動支援を知っているか

「知らない」が予想以上に多く、今後内容を精査していきたい。

Q5 自由意見

福祉の社会資源を充実させて欲しいという意見が多い。

今年度はアンケートの実施と集計で終了するが、来年度はアンケート結果の分析を行い、移動支援事業の適切な基準について提言をまとめて欲しい。

### (3) 障がい者のつながりを支えるチーム

ひきこもり等の社会とつながり難い方をどう繋げることができるか考えてきた。家族にも何らかの支援が必要と感じるが、児童、精神、高齢、教育等いろいろな分野にまたがっているため、どこに繋がればよいのか分からず、縦割りでは解決できない課題である。市役所をはじめ、多分野の地域資源と横串で連携しなくてはならず、その目指すべき姿のイメージをチームで共有するため、レゴブロックを使ったチームビルディング研修を行った。

来年度は、他チームからの意見も聞き、分野を越えて活用できるフローチャートのようなものを取りまとめて欲しい。

### (4) 障がい分野の情報を発信・啓発するチーム

研修の実施に向けて活動してきた。開催日は令和2年3月7日（土）、場所は東部学習セン

ターで行う予定である。講師の畝本彩美さんは、視覚障がいの当事者で「障害平等研修」のファシリテーターとして各所で活動されている方で、「障害平等研修」はオリンピックの研修にも採用されているメジャーなものである。数年前に千葉県庁の研修でも採用され、今後柏市でも一般市民向けに行われる予定となっている。是非、各事業所の皆さんに参加いただきたい。

来年度への引き継ぎ事項は、この研修が終了してからまとめる。

#### (5) 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム

地域の医療機関にも参加していただき事例検討を行ってきた。病院から地域へ繋ぐための窓口が分からない、逆に地域から病院へ繋ぐ時の窓口が分からないとの意見も出ており、お互いに窓口が分からない等の課題が分かった。

来年度は、これまでの検討のまとめ、適切な社会資源につなげられる連携体制を目指し、支援のフローチャートを作成したいと思っている。

#### (6) 医療的ケア児支援チーム

メンバーに直接医療的ケア児に携わっている人がいないため具体的な関係機関の役割についての全体像の把握ができていないことが課題であった。そこで習志野保健所の保健師の方や訪問看護ステーションの方にも参加いただき、医療的ケア児についての勉強会を行った。医療的ケア児の福祉サービスが少ない、コーディネートする役割が不足している等の課題が分かり、医療的ケア児の家族の孤立化を防ぐため、地域の人たちに医療的ケア児について知ってもらおうということとなった。

令和元年11月10日に障がい福祉課と健康増進課、こども支援課で呼吸器を付けた医療的ケア児のお子さんを集めた交流会を実施し、参加して下さった3家族の保護者に意見を伺ったところ災害時の不安があることが分かった。

来年度は、災害時の備え等についてまとめたリーフレットなどを作成し、関係機関等に配布したいと思っている。作成しただけで終わりではなく、保健所等とも連携しその後もブラッシュアップしていく予定である。

### 質疑応答

障がい者のつながりを支えるチームは、参加者の価値感が違い、最も進め方が難しいのでは

ないかと思う。社会との繋がりなのか、障がい者同士の繋がりなのか等、チームとしてどこを向いての繋がりを考えているのか。

→ 障がい者を支援する側が、地域のどんな関係機関と繋がっていけるのかということ。困りごとの相談を受けた時に、どんな機能・技能が備わっていれば上手く繋がっていくのかを考え、来年度システム化していきたい。

部会長

年度の切り替わりのため、令和2年2月17日の自立支援協議会本会議へ地域連携部会として提案事項は無しということによろしいか。

→ 異議なし

## 2 次回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会の議題について

事務局

### ・年度変わりによる新旧チームの移行について

次回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会（以下「自立支援協議会」という。）本会議では、各チームから報告をいただいた上で、事務局より年度変わりの移行について報告を行おうと思っている。

原則として年度ごとにチーム編成を見直すことになっているが、1年間のチームでの検討を通じて、新たな課題や検討事項が多数上がってきているため、これらも極力引き継いでいきたいと考えている。そこで新旧チームの移行については、新規性と継続性の両方を維持できる形で移行していきたい。

現在のチームは、令和2年2月下旬頃迄には検討結果を取りまとめ、チームの活動は令和2年3月末には終了となる。並行して令和2年3月17日に報告会と課題収集のためのワークショップを開催し個別の課題を収集し、その後3月24日の地域連携部会で地域課題を整理して次年度の新チームの編成をする。必ず引継いでもらいたいことについては、原則として新チームで引き継ぐこととしたい。現在のチーム編成もワークショップなどを通じて収集した地域課題をもとに編成しているので、大きな改編はないと想定している。

### ・「報告会&ワークショップ」の開催について

令和2年3月17日に、チームメンバーだけではなく地域の事業所や団体の方にも参加いただき開催する予定。ワークショップのファシリテーターは市民活動推進センターのプロジ

ェクトマネージャーの影山氏にお願いする。

#### <進行イメージ>

- ①発表：各チームリーダーは、各チームごとの検討報告を5分程度で行う。各チームには、事前に検討の概要を1枚の書面にまとめてもらい、当日その書面を参加者に配付する。どうしてこの課題を選んだのか、検討の経過はどうだったのか、どういう結論になっているのか等、簡単に説明する。
- ②質問タイム：各チームからの発表後、現行の6チームごとにブースを作り、質問がある方はブースを訪ねて質問をする。
- ③課題収集ワーク：課題収集のためのワークショップを行う。チームブースをテーマブースに変更し、チームに所属していない参加者及びチームリーダーと副リーダー以外のチームメンバーは興味を持ったブースに集まりテーマに沿った課題出しワークをする。これを3回程度繰り返す。
- ④共有・まとめ：最後に共有・まとめを行う。

※ワークの内容を事務局で取りまとめ、地域連携部会にて新チーム編成について検討する。

#### ・「チームビルディング研修（令和元年12月9日開催）」の報告について

レゴブロックを用いた参加型研修で、それぞれの想いをを持ったメンバーが、ワークを通じて協力し課題に対処していける関係性を構築することを目的とするもの。各自の考えをレゴブロックに表していき、最終的にはチーム全員で目指すストーリーを作っていく。

講師は、市民活動推進センターのプロジェクトマネージャーの影山氏にお願いした。来年度以降は、各チームでも行っていきたい。

#### ・コミュニケーション支援ボードの作成について

災害時の各避難所等で、障がいをお持ちの方がコミュニケーションを取りやすいように、絵を指させば相手に意思表示ができるようなボードを作成した。実際に21か所の避難所の倉庫に7部ずつ設置した。避難所の運営は市の職員だけでなく、自治会の方をはじめとした地域の方にご協力いただくので、障がいについて知ってもらおうきっかけツールになって欲しいと思っている。来年度は、これを設置したことを自治会等に説明に回り周知していく予定である。

部会長

次回の自立支援協議会本会議には、以上4点を議題としてあげるといふことによろしいか。

→ 異議なし

### 3 その他

事務局

追加のワークショップ実施の報告。前回の地域連携部会で、今後の自立支援協議会の方向性を示して欲しいという意見があった。自立支援協議会本会議にも報告し考えて行こうということになり、こちらもワークショップを令和2年2月17日に実施する予定で、内容は鎌ヶ谷市の障がい福祉の現状をデータで見て考えようというものである。

#### ・「テーマ別チームってなんだろう」の更新について

今年度の最初に配付した資料の更新。最も重要な改正点は、なぜテーマ別チームに参加するのか説明した部分を追加した。チームの運営費やメンバーの報酬等、当初に説明不足なことについて質問や意見があがったので説明を記載した。

#### ・チームメンバーを対象としたアンケートの実施について

今年度1年間のチーム運営について、メンバー各個人の感想や意見を聞かせていただきたい。

#### ・次年度のスケジュールについて

令和2年5月19日、チームメンバー全員参加のキックオフミーティングを開催予定。

地域連携部会は、5月22日に第1回、10月8日に第2回、令和3年2月5日に第3回、令和3年3月頃にまとめのワークショップ、令和3年3月23日に第4回を実施する予定となっている。

部会長

ほかになければ、閉会とします。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和2年4月7日

氏名 黒岩 史郎 \_\_\_\_\_

氏名 星野 里香 \_\_\_\_\_